

19m04

教育方法論m

班別討議



教育技術をめぐる論争



全体発表

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 4 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育技術をめぐる論争)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (「教育技術の法則化運動」が展開)

・「現代化」のパラダイム(枠組み)が問われる

・授業づくりを促す「授業づくりネットワーク運動」が発足

・教育内容、教材、教授行為、学習者の4つのレベル、次元で授業を捉えるようになる

「技術性」重視 → 「芸術性」批判

「芸術性」重視 → 「技術性」批判

↳ 着目により授業研究における解釈学習方法に道を拓くことになっていく

■肯定的 web (教育技術の開発における)

まとめ (研究方法論の考察)

・教育実践において、教育技術はきわめて重要

・教育技術については、教師個人の努力と精進に期待されている

・最近の情報技術やネットワークを活用して教育技術の開発を検討する必要がある

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■否定的 web (

まとめ (

・
・
・

■班としての要約

まとめ (

・教師や子どもたちがとりまく世界が変わるにつれて、
・教育技術も変化すべき
・そのためには、新たな技術や知識を得るべき
授業を様々な視点から見るのが大事

キーワード 10~20 語 明日中に 概念系統図

・教育技術	・法則化運動	・現代化	・パラダイム
・授業	・ネットワーク運動	・教育内容	・教材
・教授行為	・学習者	・レベル	・技術性
・芸術性	・解釈学習方法	・教師	・努力
・精進			

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと) 2019.10.29

第 4 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育技術をめぐる論争)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (

- ・教育技術とは、「できるだけ少ない時間で、
- ・教える側の側に知識・技能などの担いに
- ・治って身につけるようにする習練によって
- ・身につけた教える側の行為」と向山洋一
- が定義した。

p94

向山洋一に賛同した人の考え?

■肯定的 web (北海道大学 ページ)

まとめ (藤岡信勝の考えについて)

- ・藤岡信勝は、教育内容、教材、教授行爲、
- ・学習者の4つのものさしで授業論を語った。
- ・ていた。
- ・→教材作りでは、「上からの道」、
- 「下からの道」という考え方も生まれた。

p96

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

否定的というより、向山洋一の考えより前の取り組み

■否定的 web (J-STAGE およ 鹿児島大学 柳野浩二)

まとめ (斉藤喜博の考えについて)

- ・→島小教育と呼ばれる学校教育を
- ・11年間行っていた。

■班としての要約

まとめ (教育技術をめぐる論争)

- ・。授業論を考えるにあたって、指導案の作成するなど
- ・して、単元のポイント、重要な考えをしっかりと考え、
- ・伝えられるようにすることが教育技術と考えられる。
- ・。単元後、斉藤喜博などの多くの人が様々な
- ・解釈し、新たな教育技術の考えが生まれてきた。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・教育技術	・向山洋一	・藤岡信勝	・上からの道
・下からの道	・教育内容	・教材	・教授行爲
・学習者	・斉藤喜博	・島小教育	・単元前教育
・軍国教育	・自由な教育	・法則化運動	・技術性
・芸術性	・林竹二	・ポイント	・プロセス

教育目標に関する基本的な考え方



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 4 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育目標に関する基本的な考え)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ()

- ・ 内容と能力との掛け合わせ
- ・ 読解力や数学的リテラシーとそれぞれの能力を反映
- ・ 到達目標, 方向目標, 体験目標の3つがある
- ・ 3つの柱から発達課題, 教育評価を想定し, 目標を定める。

■肯定的 web (学習指導要領解説)

まとめ ()

- ・ 資質, 能力の明確性, 地域の実態等々を踏まえる (必要あり)
- ・ 教科横断的になって整理すべき。
- ・ 加ららぬ・スネジメットを踏えた学習基盤が求められる。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■否定的 web (北極星のような教育目標でいいか)

まとめ ()

- ・ ユニークな目標をたてるべきだが、批判がでる。
- ・ 具体的な目標を設定している学校は少ない。
- ・ 中央教育審議会も問題視している。

■班としての要約

まとめ ()

- ・ 明確化を早期に下ろすのがいい。
- ・ 社会情勢の目で決めるべきでない。
- ・ 3つの柱に3要素を要す。

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 内容	・ 能力	・ 読解力	・ 数学的リテラシー
・ 目標	・ 評価	・ 教科横断	・ コーナー型
・ 具体的	・ 明確的	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 4 回

各班ワークシート複数資料用(まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育目標に関する基本的な考え方)

■テキスト (新しい時代の教育方法) P104~108

まとめ ()

- ・到達目標
- ・… 評価基準を明確にし、達成度を評価
- ・方向目標
- ・… 教科にたいする興味・感心の方角性を評価
- ・体験目標
- ・… 到達・方向目標とは異なり、授業における体験をすることを重視

教育目標 … 子どもに何を学ばせ、どんな力を獲得させるか

・内容 … 子が学習する内容。教科など

・能力 … 子が内容から獲得する力のこと。計算力 etc

■肯定的 web ()

まとめ ()

・ どうかして決まる?

・ ① 学問の系統 ② 子どもの発達 ③ 社会の要請

まとめ

教育目標は、学ばせる内容、子どもの発達状況、国からの要請から決まり、子どもに獲得させる力に応じて、目標をさだめ、授業を構成し、

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・多数の web サイトを探したが、
- ・否定的なものはなく、私たちが確認した中で存在しなかった。

■班としての要約

まとめ ()

- ・教育目標は、その時代によって
- ・変わっていき、到達目標、方向目標、体験目標のうつを重視して授業を行う。

キーワード 10~20 語

・教育目標 ・教材

・

・

・

・

・

明日中に 概念系統図

・学習形態 ・教育評価

・

・

・

・

・

教育目標・内容の諸相



カリキュラム「教育課程」というのはい意味では、
教科内容についての計画を意味するが、
教育目標も含めた教育活動全般をさす。

カリキュラム評価は教育目標を効果的に達成するために

カリキュラム開発は教育目標の再検討に始まる

教育の目標を分析する 課題分析と目標分類

教育の目標を具体化する 教科内容と教材、教具

- 学習者が獲得すべき知識やスキル、
- 教科内容を見具体化した素材や事実、
- その学習活動に用いられる道具

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 4 回

各班ワークシート複数資料用 (まとめ)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育目標・内容の諸相)

■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ (教育課程について)

- ・ 社会を生き抜く力の養成
- ・ 学びのセーフネットの構築
- ・ コミュニティの形成と絆づくり

形式を学ぶ形式陶冶と内容を学ぶ実質陶冶
教育目標を構造化するカリキュラム (教育課程) の
開発とそれを評価する

教育の目標を具体化する科・科内容と教材

→ ① 古典、数学

教具

② 知識、技能の獲得

■肯定的 web (教育課程の基本的な考え方)

まとめ (教育課程の目的)

- ・ 「生きる力」を育成することを目指す
- ・ 自ら考えて行動し、判断する
- ・ 生徒指導、学習指導に取り組む

学習指導要領は枠組みであり、それを実現するための学校の組織づくりも必要
教育課程の構成は、教師と児童・生徒によって作られる。

■否定的 web ()

まとめ ()

- ・
- ・
- ・

■班としての要約

まとめ (教育課程と目標)

- ・ 教育課程は児童・生徒が「生きる力」を
- ・ 養うために生徒指導・学習指導に取り組む

形式陶冶と実質陶冶の比較
教育目標実現のための具体的な教科内容と
教材・教具
→ 取り組んで評価する
(カリキュラム評価)

キーワード	10~20 語	明日中に	概念系統図
・ 教育課程	・ 教育目標	・ 学習指導要領	・ 組織
・ カリキュラム評価	・ 教具	・ 教師	・ セーフネット
・ 生きる力	・ 教材	・ 児童	・ コミュニティ
・ 形式陶冶	・ 生徒指導	・ 生徒	・ 絆づくり
・ 実質陶冶	・ 学習指導	・ 枠組み	・

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。



全体発表 (ICT活用例)



教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICT)

■ 学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

箱の形

■ 目標、内容・指導の概略等

展開図と箱の形をわかりやすく理解する

前で見せ方も1人1班でやってもらって

自ら自身で作り

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取

■ 教材・板書計画、評価の観点・規準等

■ 工夫した点、出典等

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に思い入れのあるものを取り

教育方法論 19m 班まとめ (授業者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICTの物理・化学実験への応用)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

物理・化学の実験

■目標、内容・指導の概略等

1. 生徒各自のPCをその各々に対応したプロジェクターに接続させる。
 2. そのエクセル画面を表示させ、それをプロジェクターを通して巨大スクリーンに映させる。
 3. 指定した表またはグラフを作成させ、スクリーンに映させる。
 4. 測定を進めさせ、得られたデータを表またはグラフに順次リアルタイムで記入させる。
- ※全ての生徒に同じ測定を行わせる

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感想を述べる。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

物理・化学の実験で、生徒に測定を進めさせながら測定結果をエクセルに入力させ、その様子を巨大スクリーンのようなものに映させる。

■工夫した点、出典等

http://www.jsse.jp/~kenkyu/201631/03/20163103_41~44.pdf

理科教育におけるICTの活用に関する研究
ーデジタル教科書の機能に着目してー

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での白公文書の発表に用いたものの取り

全体発表(確認問題3)



教育方法論 19m 班まとめ (発表者が書くこと)

第 回

各班ワークシート (確認問題まとめ)

- 1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問1

知識観と系統性

問題解決の質

■問2

広域統観 三層説

階層性 計測可能説

中域統観 段階説

- 2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■問3

子どもが受け身になる
学習を深めていくのを邪魔
学習集団の役割を担っている。

■問4

1,2,3は生きていく上で必要な最下限の
知識を解しやすくした。

4は、子どもたちの中で生きていく
ものは何かと向き合ってくれた。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ

各班ワークシート (確認問題まとめ)

- 1) (班内) まとめ
各問のポイント

■問 1

- ① 知識観と系統性
- ② 「問題解決」の質

■問 2

(広岡亮蔵)の学力モデルは、態度を中心に、(関係的な理解)と技術(要素的な知識)と技能の(三層)説、(勝田守一)の学力モデルは、(認識の能力)を重視した(計測可能)学力説、(中内敏夫)の学力モデルは広義の(知識)が「学習者によってこなされた状態を習熟」と呼ぶ段階説。

- 2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

その結果、...

■問 3

「にのしい授業」という主張とは、
「わかる」ことの質を吟味する提起であり、
「子どもたちが主体的に五感を働かせたもの」であり、授業研究に対して新たな課題を提起するものになった。

■問 4

学力における基礎についての4つの解釈

- ① すべての学習の基礎であり、実生活においても不可欠となる3R's (読む、書く、計算する)としての基礎学力
- ② それぞれの教科学習にとって基礎となる教科内容としての基礎学力
- ③ 国民的教養の基礎として少なくとも義務教育段階までに共通に獲得してほしい教育内容としての基礎学力。
- ④ 学力構成における基礎部分としての基礎学力。

- 2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り組む時間や、問題内容と発表班との関係などについて、気づいたこと、感じたことをのべよ。